

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	すくすくキッズ天神橋		
○保護者評価実施期間	2025年3月6日 ～ 2025年3月19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月5日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりにあわせてプログラムを作成し、成長や状況に応じて見直しを行い、最適な支援を行っております。	・担当する児童指導員を完全には固定せず、複数の指導員が関わりながら児童の様子を観察・把握しております。 ・情報共有を色々な方法で行っております。 ・マンツーマンの時間も設けることで、アセスメントを行い、その日の児童の体調や状況を把握しております。	・粗大遊具やボードゲーム以外にも、新しい取り組みができるように、療育用品を豊富に取り揃えて環境調整を行っております。
2	PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)を導入し、コミュニケーションに困難を抱える人が、絵カードを使って意思を伝え、コミュニケーションを円滑にするための支援を行っております。	・児童が興味を示すものを観察し、伝えたい気持ちをひきだせるように、支援をしております。	・『自ら絵カードを探す⇒絵カードを並べる⇒タップ（指さし）をしながら話す⇒渡す』の一連の流れが定着するように、継続して行っております。
3	ビジョントレーニング及び眼球運動を行い、視覚機能を向上させ、学習やスポーツなどのパフォーマンスを向上させるプログラムに取り組んでおります。	・視覚的ツールを使用し、習慣化になるように、アプローチしています。 ・競争やゲーム、音を表現するなど、意欲的に取り組めるように促しております。	・眼球運動の方法や種類を模索し、導入を検討していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事故対応や災害対応等に備え、マニュアルの整備、研修、訓練を行っているが、実際に起きた際にも動揺しないように、児童と保護者と従業員間で、情報共有を徹底することが必要である。	・児童に対し、事故や災害について話をする時間を十分に設けることができていません。	・紙芝居や書籍など、日ごろの療育の中で取り入れやすいツールを用いて、児童に周知する工夫が必要と考えております。
2			
3			